

Title	ハウスメーカーの製造業化と施工現場の変容
Sub Title	
Author	都筑由美子(Tsuzuki, Yumiko) 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1994
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1994年度経営学 第1104号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1104

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

都筑由美子

主査 小野桂之介

副査 高木 晴夫

河野 宏和

所属

小野桂之介 研究室

ハウスメーカーの製造業化と施工現場の変容

過去数年間あるハウスメーカーで従事した実務経験を通じ、私は、現場職人が様々な技術的ノウハウや顧客ニーズに関する貴重な情報を持っているにも関わらず、ハウスメーカーがこれを十分に活用していないと感じていた。

建設現場からハウスメーカー本社各部署までの情報フローがどこでどのような理由で分断しているのかをいくつかの企業に対するインタビュー調査によって調べ、この問題が他のハウスメーカーにも広く存在することを確かめ、具体的な対応策を検討しようと考えた。しかし、インタビューを進めるうちに、問題の原因は情報フロー自体ではなく、ハウスメーカーに於ける建設現場に対する認識の違いにあることが判明した。ハウスメーカーの建設現場に対する認識には、住宅建設を建設業と認識する建設業系と、製造業と認識する製造業系と、それらの中間に位置する中間系の3タイプの間でかなり明確な違いが存在することが判った。

そこで、協力してくれた4社2営業所におけるインタビュー調査の発言から、現場の問題や現場に対する意識等に関する発言を抽出し、建設業系、中間系、製造業系とを比較して分析を行った。その結果、私の所属企業を含めた中間系ハウスメーカーには、建設現場が事業の中心であり、現場職人の情報は重要であるとする建設業系に類似した認識と、合理的な工業生産を推進するために、現場を含めた工程や製品を標準化すべきとする製造業系寄りの認識とが混在していることが発見された。これが、自己矛盾を発生させ、それによってねじれた構造になっていることが確認された。

こうした研究作業から、中間系ハウスメーカーに生じている現場の情報の問題は、前述のねじれ構造に起因し、このジレンマから脱却するためには自らの在り方を建設業系あるいは製造業系のいずれかに特化する必要があるとの結論に達した。さらに、ハウスメーカーのサービス業化という新たな発展方向の可能性についても検討を加えると共に、本研究の出発点となった現場からの情報収集を促進する具体的な方法について提案を試みた。